

友好都市—日本柏市訪問について 一王 斌



今年、柏市と承德市の友好都市条約締結35周年を迎える年となり、その間、誠実で心こもった市民交流活動を着々と行ってきました。柏市国際交流センター承德委員会のメンバーは30人ほどおり、ほとんど60から70代の方達ですが、すべてのお仕事に対し苦勞をいとわず、全力で取り組む姿勢に深く感銘を受けました。先輩達の努力の結晶とも言えるこの友好交流の宝物を、私たちは必ず受け継ぎ、両市の友好交流事業に対し両市政府はもとより、各業界各分野ともに力を合わせて、全力で推進すべきだと思っています。

この度、承德市第八回青少年代表団体の6名の青少年は、柏市を訪問し、柏市民の家庭を訪れ、日本の民族文化、日常生活を体験し、日本の青少年と友好交流を行い、相互の理解と友情を深めてきました。特にホストファミリーの皆さんは、私達を自分の家族のように温かく接し、おもてなしを行っていただき、私は柏市民の皆さんの友情を感じることができ、とても感動しました。

日本は自然保護を大切にしている国で、東京や柏市では、道路の両側にはゴミ箱などほとんど見られないのに、ゴミが散乱しているような状況はほとんどなく、偶にゴミ箱があっても、整然と分類されており、環境の良さに感動しました。また、日本の青少年達は、身体能力や実技的な能力など、中国の子供達より優れていると思います。承德市の学生達は、書面の知識を一生懸命勉強すると同時に、実践的な能力を強化する必要性を訪問を通じて強く感じました。

何日間かの訪問を通じて、柏市民の仕事に対する真面目さ、社会秩序の良さ、経済の繁栄、伝統文化の伝承、そして礼儀を重んじる姿勢など、身をもって体験することができました。私自身としては、承德市と柏市の友好交流がさらに発展していくよう切に願い、そのために自分が出来る仕事を一生懸命頑張る所存でいます。